



モニター通信



vol.32平成28年11月1日発行

ごみ減量親子モニターを実施しました！

市内の小学生とその保護者を対象に、ごみと資源に関する講義や工作、また工場見学を通じてごみの減量やリサイクルについて学んでいただきました！

学習したテーマは2つ ①ガラスについて ②紙について

今回は「①ガラスについて」の学習についてご紹介します。

ごみについての学習



空き瓶を利用した
スノードーム作り



ガラスの材料工場とガラスビン工場を見学

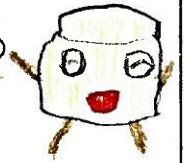


- 親子モニターにご参加いただいた小学生の皆さんのレポートを一宮市立中央図書館で掲示します。
- 期間：11月15日（火）～20日（日）※図書館の開館時間に準ずる
- 場所：一宮市中央図書館（栄3丁目1番2号 尾張一宮駅前ビル）5階児童図書エリア（図書館内専用エレベーター北側）
- 掲示物：「①ガラスについて」「②紙について」のレポート（参加者全員分）





使い終わった空びんはしげんとしてルールを守って出しましょう



① キャップを取る

ついたままだとリサイクルの
じょうまになります。



② 中をさっとゆすぐ

中身がのこっていると
ふえいせい。
ゆすぐと、リサイクル
しやすくなります。



③ あきびん以外を 混ぜない

きかいごとのりわけなれごとも
あるので、リサイクルのじょうまになります。



平成28年7月25日(月) ガラスの講座

神山小学校 三年生 名前 後藤 勝利木

ガラスびんのよい所は、しげんとして何度

でもくりかえし使えることです。

ガラスびんの主な原料は、

けい砂と石灰石とリーダ灰 30%

カレット 70%

カレットはリサイクルしたガラスびんのキャップや

ラベルを外してから、細かくくだいた物です。けい砂より

小さく手に入ります。そして、カレットはけい砂よりもひくい

温度でとけます。また、短い時間で作りやすいので、

エネルギーが少しですみます。新しいガラスびんの原料

として、リサイクルしにくいかえし使った方がしげんもエネルギーも

せつやくできるからです。それは、地球温暖化のぼう止に

つながります。地球にやさしい、さい生かのうなエネルギーを

り用するものは大切なのです。一人一人がリサイクルを心がけて

地球の一口目であることをおぼえておきましょう。

ガラスのつくり方

石塚硝子と大原硝子で見たこと

ビンを資源ごみで出す時に気をつけること
 ①キャップを取る
 ②中をさっとゆすぐ
 ③あきびん以外のものを混ぜない

1 原料

石灰石
ソーダ灰
カレット



8 出荷

中身を入れるビン詰めの工場へ出荷されます。



2 溶解

大きなかまの中に原料を入れて約1500℃の熱でドロドロにとかします。



7 包装

バルク・カートン・P箱など、出荷先に合わせた形態で包装されます。



3 ゴブカット

溶かしたガラスから、ガラスビンを作るのに必要な量を切り取り、それをゴブカットと



6 検査

ガラスビンの形状、細かいキズまで、検査機や人の目でびびしくチェック



4 成形

ゴブを製びん機の金型に入れてガラスビンの形にします。



5 徐冷

熱をもっているガラスビンを割れないよう少しずつ冷やしていきます。



ビンはいつもリサイクル

平成28年7月25日(月) ガラスの講座

瀬部小学校 五年生 名前 伊藤 咲

今回、親子モニターガラス講座に参加できて本当によかったです。講座中はおどろきの連続でした。まずカレットです。ガラスびんがリサイクルされる事は知っていましたが、その方法を全く知りませんでした。そして、カレットを作る会社とガラスびんを作る会社が別であることもおどろきました。ガラスびんを作る工場では、とかしたガラスが火のかたまりのように飛んできて、金型に入るスピードにも目を見はりました。そして何より、としたのは、びんを冷やすために(徐冷)炎を使うことです。そしてガラスをとかす工場が想像以上に暑くて、音もうるさかったです。そこで働く人達は、長そで、長ズボン、ヘルメットすがた、そしてゆかはそのもすべりやすく大変な思いでびんを作ってくれているのだと思いました。

工場内を説明した人が言っていたのは、いかに分別が大切かということです。ちがう物が混じると、びんの品質も悪くなり、後で混じた事が分かったら、その前後で作られたびんも回収するそうです。びんが4つにならないうちに、今まで以上に、しっかり分別をしようと思いました。

カレットを表現するのが
むずかしかったポスターです。



(有)大原硝子店のげん関にしかれて
いた、カレットです。とてもオシャレ
なので母が工場の人にはん克
予定があるか聞いていました。

平成28年7月25日(月) ガラスの講座

神山 小学校 六年生 名前…平松 優生

ぼくが参加した理由は、ガラスのリサイクルを夏休みの宿題の「宮市環境月間のポスター」のテーマにしたからからです。母の理由は、ステンドグラスやキルンワーク、サンドブラストを勉強しているからです。二つで、楽しみに参加しました。特に印象的だった物は、トロットと液体にとけたガラスを型に入れて、一しゅんで形にする機械です。

次に心に残ったことは、ぼくがこの講座を受ける前と終わった後で、考え方が180度変わったことです。

実は、分別する時にガラスの色をあまり気にしていませんでした。しかし、色がとても大切なんだな、と気づきました。子ども会の代表として次貝源ごみの当番になることがあり、ガラス一つ一つが大切だな、という気持ちで意しきして分別することが出来ました。ぼくは、この講座で一つ成長することが出来ました。とても良かったと思います。